

費用・事務局サポートを活用して
団体活動の幅を広げる!

「ふだんの活動にプラスON 交通安全・防犯協働事業」 エントリー団体募集中

“プラスON”事業は、町田市市民生活安全課からの委託により、サポートオフィスが事務局として実施している事業です。市民団体の皆さんが日頃行っている活動に「交通安全」「防犯」のテーマを少し足した(プラスON)市民向けの啓発企画を、サポートオフィスと共催で実施していただきます。昨年度は多様な17の企画が実施されました。現在2023年度のエントリー団体の募集が始まりました。ここでは本事業を活かして、団体活動の幅を広げられるポイントをご紹介します。



団体活動に活用できるポイント

**Point 1 費用サポートを活用して、
今までできなかった取組みにトライできる!**

昨年度は、チラシ印刷費や会場費用、ワークショップの材料費等の費用サポートを行いました。費用サポートを利用し、今まで予算が少なく実施できなかったことに挑戦する機会にしてください。

**Point 2 市の事業として
サポートオフィスと共催実施できる!**

市の事業として、サポートオフィスと共催実施することで団体の実績の一つとして活用ください。

**Point 3 企画のアイデア作りの
サポートが受けられる!**

企画作りにはサポートオフィススタッフも伴走支援しますので、企画立案や実施に向けた実践的なスキルを身に付けることができます。企画実施は秋以降なので、内容もじっくり固めることができます。

Voice 昨年度の参加団体の声

町内会や警察(行政)への働きかけには遠慮があったが、組織間の橋渡ししてもらったことで、自分たちだけではできない企画内容を盛り込み実施できました。

会場の費用サポートを活用して、今まで実施してみたかった会場での開催ができ、次のイベント開催に向けて団体内でのモチベーションが高まった。

一般財団法人町田市地域活動サポートオフィス

info@machida-support.or.jp

042-785-4871 月～金 午前9時から午後6時
(毎月第三水曜日は午後5時まで)

〒194-0013 東京都町田市原町田4丁目9-8 町田市民フォーラム4階

●JR横浜線町田駅から(徒歩約5分) 小田急線町田駅から(徒歩約8分)
●お車で越越しの場合は近隣の駐車場をご利用ください

相談
無料

事前
予約制

公式SNS 更新中



www.machida-support.or.jp



CaseStudy 昨年度の実施事例

反射シールで
安全ウォーキング・交通安全講話

まちだポールウォーキングクラブ

警察署員から横断歩道を模したシートを使った交差点横断中の事故事例や注意点の説明、反射材の紹介。ポールと靴へ反射シールの貼り付けを実施。



まちカフェ!ウォーク交通安全講話・
オリジナル啓発ベスト

鎌倉古道・歴史遺産の会

町田市職員から「歩行者の交通事故」について注意点の説明。反射材の配布、交通安全標語を掲げたオリジナルベストを製作し、イベント当日の誘導を実施。



申し込み方法・今後の流れ

募集要項で詳細をご確認の上、エントリーシートをサポートオフィスまでご提出ください。エントリーシートの提出から、約1か月以内に実施内容が確定します。エントリー前のご相談もお受けしますので、まずはお気軽にご連絡ください。

エントリーシート・
募集要項はこちらから



Now

「まちだづくりカレッジ」開講しました!

Topics

事業計画作りのコツと活かし方

Information

「ふだんの活動にプラスON
交通安全・防犯協働事業」
エントリー団体募集中

ワーク「団体が目指す地域や
社会の姿を描きましょう!」
で描いた絵と共に。



Now 近況報告

「まちだづくりカレッジ」開講しました!

団体メンバーと共に活動の「今」と「未来」をじっくりと話し合っていく伴走型連続セミナー「まちだづくりカレッジ」のベーシックコース(全5回)が5月25日に開講しました。本コースでは、団体内で対話を進めながら団体の「ビジョン(理念・実現したい社会の状態)」「ミッション(使命・ビジョン実現に向けて果たす社会的な役割)」「バリュー(組織として大切にしたい価値観や在り方・姿勢)」を定め、事業計画を作成することを目指します。今年度は、当初の予定を超える4団体からのご希望をいただき、にぎやかにスタートしました。

前半では本講座の説明や参加団体の自己紹介、また互いを知るワークショップ〈共通点探しゲーム〉を行い、後半では「ビジョン・ミッション・バリュー」についての講義と共に、「社会の中で自分たちの団体がどうありたいか」「どんな社会、どんな未来を目指すのか」を体感的に捉えるために、絵や手紙を書くワークを実施しました。

メンバー同士でも使う言葉や描く絵に違いがあり、今までは気が付かなかった〈団体として大切にしたいこと〉や〈メンバーの想い〉を知ることができました。今日の気づきや学びを生かし、どんな事業計画が生まれるのか、今から楽しみです。

✓CHECK/
開催当日の
様子はこちら



▲お互いを知るワークとして〈共通点探しゲーム〉を実施。わずかな時間でも、目には見えないお互いの共通点を7つ以上探し出した方が4名以上も!

アドバンスコースも 熱く進行しています!

団体同士が共通のテーマや目標を掲げ、協働プロジェクトを遂行する取り組みに対し、個別型のコンサルティング支援を行うアドバンスコース。

今年のテーマは「子どもの権利」です。今後プロジェクトの概要が固まりましたら、ホームページ等で紹介します。

Profile ベーシックコース参加団体と受講理由

like minds

フィンランド発祥、世界で注目されているオープンダイアログの手法を軸に、困りごとを抱える方をともに支える活動をしている。町田での事業展開を学ぶために参加されました。

NPO法人アートネットまちだ アートを通じて豊かな生活を作る活動を実施。法人活動でワーク&バランスのあり方や若い力を入れて、発展的な取り組みができるかを考えるために参加されました。

アマタメ企画

「誰でも輝くことができる」アマチュア向けのエンタメ作りを目指して活動中。活動の幅を広げるためにメンバー同士で腹落ち感のあるビジョン・ミッションを作りたいと参加されました。

ワン&オンリーののちの会 東京・町田

妊娠の悩みを抱える方の相談や出産費、検診費の支援を実施するための1円玉募金を実施。団体の認知向上のために、今一度メンバー間で方向性を検討する機会にと参加されました。

団体のみなさんの
知恵や経験を聞きました

事業計画作りの コツと活かし方

事業計画と一言で言っても単年度の計画、5か年、10か年の方針をまとめる中長期計画などがあります。一方で紹介したまちだづくりカレッジ(以下、カレッジ)で作成する「事業計画」は、そうした事業計画とは少し違い、団体が目指す未来の地域や社会の姿、自分たちが果たすべき役割、大切にしたい価値観など、事業を検討するための基盤となる、いわば団体の核の部分を中心にまとめます。本ページでは、計画を作成した団体のみなさんの経験から、作成までのプロセスやまとめかたなどの「知恵」をご紹介します。サポートオフィスでは、事業計画書の作成についてのアドバイスも随時承っています。お気軽にご相談ください。



2022年度まちだづくりカレッジ参加団体のみなさんに回答いただいたアンケートを元に「コツ」と「活かし方」をまとめました。

事業計画書作りのコツ

Q 計画を作るために対話の場をうまく進めるためのコツは？

A 活動への関わり方の違いによって温度差があることを意識し、普段は物静かで発言の少ない、**現場に近いメンバーの想いから聞くようにしました。**「何をやったか」よりも、「何のためにやったか」と、過去のことも**未来のことに意識が向くよう**に進行しました。

☑ サポートオフィスから

想いを言葉にするのが得意な人苦手な人や関わる期間によって情報が多い人少ない人等、いろいろなメンバーがいます。**言葉にできていない想いを意識して聴きあう時間を持つことも計画づくりの大事なコツですね。**

Q 事業のターゲット(ペルソナ)を具現化するコツは？

A 事業対象者の中で一番悩みの声が多い学生をターゲットにすると決めたので、**当事者である学生メンバーに意見をもらいターゲットを明確に**していきました。まだ知る人が少ない病気の悩みであると思ったので、その病気の説明を**初めての方でもわかるように丁寧に書くこと**を心がけました。

☑ サポートオフィスから

具現化のコツは、やはり当事者に聞くこと。ターゲットに近い3名ほどに話を聞くことをおすすめしています。ターゲットが定まっていると、事業内容や広報戦略を考える時もメンバー間で考えやすくなります。

まちだづくりカレッジで作成する事業計画

カレッジでは、メンバー同士の対話を通じて、自団体のビジョン(理念)、ミッション(使命)、バリュー(行動指針)、ターゲット(活動を届けたい相手)、ステークホルダー(関係者)などを整理しA3用紙1枚にまとめます。

Profile

NPO法人 多汗症サポートグループ

原発性局所多汗症の啓蒙活動を行う。また多汗症患者のための商品開発、販売を通じて生活の質の向上に寄与することを目的に活動をしている。



▼2022年度まちだづくりカレッジ参加(NPO法人多汗症サポートグループ)が作成した事業計画書

ステークホルダー

ビジョンの実現に向けた中長期計画

ビジョン/ミッション

ターゲット(ペルソナ)

ビジョンの実現

事業計画書の 活かし方

- 事業計画をサポーター研修での説明や想いの共有の際にも活用しています。
- 事業計画を作る中でメンバー全員の気持ちが集まりました。展示会や広報の準備にも活用しています。今後見直しをして更にブラッシュアップさせようと思っています。
- 数年たった後でも改めて見直したり、この計画を元にメンバーと新たに話をしたりと、事業を進める上での立ち返る場所になっています。

☑ サポートオフィスから

現場での気づきをみんなで考えて新しい取り組みを進めることが多い市民活動の現場では、迷うことも多いと思います。事業の進め方に迷った時、進む道を決める判断軸となるのは、リーダーでも、先生でも、先輩でもなく自分たちで立てたビジョンやミッション。**活動を支える強い味方が事業計画書と捉えられます。**

まちだづくりカレッジ2022年度最終報告会で各団体が作成した事業計画書や報告会の様子はこちらからご覧いただけます。



Check!